

先天性血液凝固因子障害

(8) 第 X I 因子 (P T A) 欠乏症 診断書

<氏名> _____ <生年月日> _____ 年 月 日 <年齢> _____

<性別> 男・女 <住所> _____

<発病年月日> _____ 年 月 日 <初診日> _____ 年 月 日 <診断年月日> _____ 年 月 日

<先天性・後天性の別>

先天性 後天性 (※後天性の場合は、本事業の対象外となります。)

<必要な病歴>

1. 家族歴 あり なし

2. 出血症状 あり なし

症状: 鼻出血 皮下出血 歯肉出血 筋肉内血腫 関節出血

頭蓋内出血 血尿 手術後出血 月経過多

その他 _____

<必要な検査所見>

1. P T (検査年月日: _____) _____ 秒 正常 延長

2. A P T T (検査年月日: _____) _____ 秒 正常 延長

3. 第 X I 因子活性 _____ % 正常 低下

(検査年月日: _____)

<参考となる検査所見>

1. 肝障害、D I C を否定できる。 できる できない

2. 第 X I 因子抗原量 _____ ug/ml 減少あり 減少なし 未施行

(検査年月日: _____)

3. 第 X I 因子の遺伝子学的検査 異常あり 異常なし 未施行

(検査年月日: _____)

医療機関名 _____

医療機関所在地 _____

(電話番号: _____ - _____ - _____)

医師の氏名 _____ (記載年月日: _____ 年 月 日)

<審査のための基準>

【必須項目】

1) P T は正常であるが、A P T T は延長し、第 X I 因子活性は正常以下に低下している。

2) 病歴で家族歴あるいは出血症状を認める。全く無症状のこともある。

【参考項目】

1) 他の疾患による因子活性の低下を否定できる。

2) 第 X I 因子抗原量の低下は参考になり、できれば測定してあることが望ましい。

3) 分子学的異常が証明されれば、診断確定の参考になる。